

(熊本県立御船高等)学校 平成28年度学校評価表

1 学校の教育目標	
(1) 社会規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立	(5) 健康・安全教育の徹底と学習環境整備の徹底
(2) 確かな学力の育成	(6) 部活動の活性化と地域に根ざした学校教育の推進
(3) 個性を伸ばす進路指導とキャリア教育の充実	(7) 地域に信頼される特色ある学校づくり
(4) 心の教育の充実	(8) 校務改革による「生徒と向き合う時間」の確保

2 本年度の重点目標	
(1) 社会規範意識の醸成と豊かな情操・道徳心の育成 ア 生徒会活動の活性化による「あいさつ、服装、時間の管理、交通マナー」の向上等、主体的に自己改革に取り組む態度の育成に努める。 イ 他者への思いやりの心や人権を尊重する心を育むなど、心の教育の充実に努めるとともに、特に、学級における仲間づくりに配慮した教育活動を推進する。	
(2) 高い目標の進路実現を図る指導体制とキャリア教育の充実 ア 習熟度別指導や個別指導等による個に応じた指導の工夫・改善を進め、学習習慣の確立を図り、進路・適性に応じた能力の向上と技術を身に付けさせる。 イ 進路研究、進路講演会の充実を図り、主体的に進路を選択、決定できる能力や勤労観・職業観を育むキャリア教育を推進する。 ウ 3年間を見据え進路指導体制の確立に努める。特に、二者面談、三者面談を充実させるなど、年間指導計画のもと継続的な進路指導を推進する。	
(3) 全人教育としての部活動の振興	

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	特色ある学校づくり	学科・コースの指導の充実	特進、普通クラス、芸術コース、電子機械科の特色・専門性を活かした指導 定員を上回る受験生の確保	○専門性を活かした進路実績の充実 ○各種大会・コンクール、資格取得に向けた指導の充実 ○生徒の活動を様々な方法により紹介する	B	学科・コースの特色を活かした学校づくりにおいては、アンケートにおいても高い評価が出ており、特に芸術コース・電子機械科では各種大会・コンクールでも実績を上げることができた。生徒も自信と誇りを持って取り組んでいる。今後は特に普通科普通クラスの生徒が明確な目標を確立できるような指導体制を築いていかねばならない。朝読書への取組は充実してきている。部活動では1年生の全員加入が徹底していない他、特に運動部活動の更なる活性化が課題である。
		部活動の充実	部活動加入率90%以上 1年生は全員加入	○部活動をとおした社会性・人間性の育成 ○各種大会の上位入賞 ○部活動顧問の積極的な指導と関わり		
		読書活動の充実	朝読書の定着 広報活動の充実と図書館利用の促進 年間貸し出し数5冊/人以上	○全職員による読書指導 ○朝読書での図書館の本の利用の促進		
	開かれた学校づくり	家庭・地域との連携	地域の行事への積極的な参加 育友会総会・報告会への出席率90%以上	○清掃活動やボランティア活動への参加を奨励する ○育友会役員との連携を密にし、保護者の積極的な関わりを促す	B	熊本地震の影響が心配されたが、育友会総会の保護者の出席率は75.6%と昨年度と同じであった。「育友会活動への保護者の協力」の保護者アンケートでは79%が「できている」と回答。今後はこれらを更に促進できるよう、保護者への周知や内容の充実に努めたい。学校情報の発信については、学校HPや説明会の充実に取り組み、今年度は新たに学校情報紙を月2回作成し地域に回覧するなどの取組も行った。
		学校の公開と情報の発信	学校HPの充実、安心メールの有効活用 公開授業・研究授業の推進	○HP更新の職員研修の実施、最新情報のアップロード ○年間2回の研究授業週間の充実と保護者・地域への周知		
	共有と協働	校務の効率化と情報の共有	校務の効率的な推進体制の確立 生徒と向き合う時間の確保	○校務分掌の見直しと運営委員会・職員会議の効率的な運営、職員朝会の削減 ○報告・連絡・相談の徹底と各分掌間の連携強化 ○校内LANの活用による情報・教材の共有と有効活用	B	校務分掌は一人一役とし簡素化を図っているが、一部分で過重な負担となっている部分もある。職員朝会は2日に1回に削減したが定着してきている。校内LANの整備は整っており、サーバー内のデータの共有、有効活用もできている。学校行事の精選を求める意見が多いが、特に今年度は熊本地震の影響もあり、変更や調整に苦慮した。今後の課題でもある。

学力向上	授業力の向上	生徒が主体的に取り組む授業の実践	生徒の理解度・満足度80%以上 学習指導要領に則した授業の改善	○年2回の授業研究会の実施と授業改善の取組 ○A L や I C T を導入した授業の実施と研修	B	「AL型授業への取り組み」を2回の授業研究週間のテーマとし、AL型授業についての職員研修を重ねた結果、81%の職員がAL型授業に取り組み授業改善に向けての成果が上がった。ICTの活用については活発に行われている。更なる推進に向けて環境整備も行っていかねばならない。
	基礎学力の向上	学習到達度に応じた適切な指導	進路目標達成のための取組 欠点保持者数の減少	○習熟度別指導や各科・コースにおける指導の充実 ○個別指導の充実と定期考査前学習会の実施	B	数学、英語で習熟度別指導を行い、生徒に応じた指導ができた。定期考査前には学年主導で学習会を行い、成績面で特に厳しい生徒に対しては教科ごとに指導を行うなど、細かな対応ができた。
	自学力の育成	主体的に学習に取り組む態度の育成	学習の動機付けと課題の工夫 家庭学習習慣の確立	○宅習時間調査の実施と調査結果をふまえた指導	C	定期考査前に生徒の計画的な学習を促すためにシートを使って学習計画を立てさせ、日々の学習時間を記録させて担任の指導材料としたが、電子データ処理の不備から統計的なデータを得ることができず、結果を基にした指導をすることができなかった。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の充実	進路意識の向上 指導力の向上	早期の進路目標の確立 望ましい職業観、勤労観の育成 進路情報の提供	○総合的な学習の時間、進路面談の充実 ○インターンシップ、大学訪問、企業見学等の実施 ○進路だよりを毎月発行	A	地震の影響で、インターンシップは規模を縮小したが、体験活動や工場見学、大学訪問、オープンキャンパス参加など、各学年や科、コースで必要な取組を工夫し、将来の進路を具体的に考える機会は増えている。進路だよりを毎月発行し、進路情報の提供に努めている。職員の進路研修も2回実施し、今後はキャリア教育の研修にも力を入れていきたい。
	進路指導の充実	高い目標の設定と実現に向けた取組の充実	大学進学率30%以上 国公立大学受験者15名、合格者10名	○進路講演会の実施 ○進路検討会の実施と指導の改善	B	進路講演会や出前授業、進路説明会等、各学年と連携した取組はできた。大学進学者は全体の18%、うち公立大に2名が合格している。3学年は1・2年次から生徒に高い進路目標を持たせ、学年内での進路検討会も頻繁に行うなど、徹底した個別指導の効果として、国公立大の実受験者数は13人で倍増、センター試験受験者数も3倍となった。一方、国公立大の合格者数は昨年より半減しており、高校教科書レベルの学習内容の定着が今後の課題である。
	就職指導の充実	県内就職の推進 就職意欲の向上 希望・適性にあった進路選択	県内就職率60%以上 就職希望者内定率100% 早期離職防止	○熊本しごとコーディネーターと各機関との連携 ○生徒の希望の把握と求人開拓 ○内定者に対するフォローアップ面談の実施	B	地震被害が心配されたが、キャリアサポーターによる就職希望者面談の早期実施と、地元企業や県内外の企業求人が増加したことで、就職内定率は昨年より3%上昇して98.7%、電子機械科では14年連続で100%を達成できた。また、内定者に対するフォローアップ面談も実施するなど早期離職防止に努めている。今年は県外大手企業への就職希望者が多く、県内就職率は52%だった。今後は県内企業求人開拓を積極的に行い、さらに内定先となっている県内企業には熊本しごとコーディネーターと担任による企業訪問を実施したい。
生徒指導	規範意識の醸成	ルール・マナーを積極的に守ろうとする態度の育成	基本的生活習慣の確立、挨拶の徹底、 情報モラル(SNS等)教育の充実 特別指導者の減少、遅刻者の減少	○全職員による生徒指導 ○全職員による登校指導 ○情報の共有 ○コミュニケーション能力の向上	B	今年度全職員の共通理解の下重点的に取り組んできた挨拶の励行、遅刻の削減等については一定の成果が見られる。しかし、多様化する問題行動やスマートフォン、SNSの使用等については対応が後手に回っている。今後は更に家庭とも連携した取組に力を入れていきたい。
	交通安全意識の高揚	交通マナーの向上 交通違反・事故防止	自転車二重ロック100% 自転車・バイク交通事故0件 交通ルール・マナーに関する指導の徹底	○全職員による登校指導 ○交通安全集会、交通安全講話、実技指導講習会の実施 ○情報収集	B	交通安全指導が「適切に行われている」との回答は、昨年度に引き続き、生徒・保護者・職員とも好評価である。しかし、震災後の交通環境の悪化も一因とは思えるが、事故の減少にはつながっていない。更に講話や集会、講習会の充実を図りマナー向上、事故削減に取り組むたい。
	自主性・社会性の育成	生徒会活動の充実 各種委員会活動の充実	生徒会中心の行事運営 委員会活動の充実 ボランティア精神の向上	○体育祭、文化祭等の行事運営 ○月1回の全校朝礼の実施 ○挨拶運動、ボランティア活動への積極的参加	A	全校朝礼や体育祭、文化祭への取組等、生徒の主体的な活動となっている点は職員アンケートからも好評価である。生徒会活動についても「活発である」との回答は生徒・保護者・職員とも昨年度を大きく上回る好評価である。熊本地震による休校期間中も多くの生徒が避難所や被災地でのボランティア活動に積極的に取り組んだ。
人権教育の推進	生徒、職員の人権意識の向上	推進体制の強化と研修の充実	人権教育推進委員会による指導体制の充実 人権教育LHR及び人権週間の取組の充実	○校内・外の研修への参加 ○人権教育実践委員会による教材や指導方法の検討	B	職員の校内・外の研修への参加は昨年度より増加した。また、人権教育実践委員会を本年度から立ち上げ、LHR等の教材の検討等を行った。今後も取組に力を入れ、生徒が自ら考え積極的に発言できるようなものを取り入れていきたい。
	命を大切にす る心を育む指導	自他の生命を尊重する心の育成	自他の生命を大切に、互いに理解し合う 集団づくり	○内外の講師による人権教育講話の実施 ○人権教育に根ざした授業づくり	B	熊本地震を経験した事により、生徒が自他の生命について考える意識が高まった。震災復興や支援のボランティア等に多くの生徒が自主的に取り組んだ。学期毎に人権朝読書の期間を設け、様々なテーマを取り上げることで継続的な啓蒙活動を行った。人権教育講話は予定通り実施できたが、今後は知的理解にとどまらず、生徒の感性に訴え実践的な行動につながるような内容としていきたい。

いじめの防止等	いじめの未然防止	他人を思いやり、いじめを許さない態度の育成	いじめに関する理解といじめ防止の実践力を育てる	○「心のきずなを深める月間」の取組の充実 ○生徒会によるいじめ撲滅宣言	B	人権教育LHRで取り上げた「アサーション」は生徒にコミュニケーションについて考える機会を与える事ができ、生徒の意識改革にもつながり好評であった。「心のきずなを深める月間」における生徒会によるいじめ撲滅宣言は、生徒の実践的行動を育てるという意味でも有効であった。
	指導体制の確立	いじめ防止対策委員会を核とした組織的取組	いじめの早期発見と早期的確な対応	○アンケート調査の実施と全職員での情報の共有 ○教職員の共通理解、保護者・関係機関との連携	A	アンケート調査の結果を全職員で共有する事はできた。また、アンケート以外でも生徒の状況を把握し、臨時的「いじめ防止対策委員会」を数回実施するなど、いじめを積極的に認知してしっかりと対応することができた。
特別支援教育	支援が必要な生徒への個に合わせた対応	基礎的環境整備と合理的配慮の提供	教育的ニーズの的確な把握と支援 保護者・関係機関との連携 校内支援体制の充実	○個別の支援計画、個別の指導計画の作成・活用 ○保護者、S C等との面談の実施 ○職員研修による生徒理解と啓発、定期的な校内委員会の実施	A	今年度は地震の影響もあり生徒の把握に時間がかかった。ケース会議や生徒理解の職員研修を定期的実施し、職員間の情報共有を図り、心のケアから支援まで、組織的な対応ができた。また、環境整備等に関して全職員の共通理解の下取り組むことができた。今後は、SCやSSW、各専門機関と連携を更に深めていきたい。
環境保健	健康管理・健康教育の充実	自己管理意識の高揚	基本的生活習慣の確立 心と体に関心を持ち自己管理能力を育成する	○保健だよりの発行 ○個別面談の実施 ○講演会を実施し、感想等を書く	A	保健便りは、昨年に引き続き県保健会の優秀賞を受賞するなど、充実した内容で計画的に発行することができた。個別面談もきめ細かに行い、関係職員との情報共有もできた。性教育、薬物乱用防止等の講演会については、生徒が自らの問題として考えることができるよう、更に充実させていきたい。また、保護者への呼びかけにも力を入れ、家庭と連携した取組ができるようにしていきたい。
	環境整備	環境衛生・美化意識の育成 安全管理	掃除習慣の確立 施設・設備に起因する事故0件	○全職員での掃除の指導、生徒による校内放送 ○掃除時間の校内巡回 ○美化コンクールの実施 ○隔月の安全点検の実施と不良箇所の改善	B	全校朝礼での美化委員からの呼びかけや毎月の美化標語の提示、美化コンクールの実施、放送委員会と連携した活動など、生徒が主体となる活動により掃除への取組は向上している。育友会と連携した夏休み中の除草作業にも多くの生徒が参加した。安全点検も計画通りに実施できた。校内美化に関するアンケートで、生徒や保護者の好評価に対して職員の評価が低い点は、一部生徒の意識が低いためと思われる。今後もこれらの取組に力を入れていきたい。

4 学校関係者評価

学校関係者6人の方に、15項目について4段階での評価をお願いしたところ、全体の平均が3.40と、全般的に高い評価をいただいた。特に「特色ある学校づくり」(3.83)は最も評価が高く、次いで「教育目標の明示」、「進路実現のための努力」、「整備された環境」、「地域行事への参加」(いずれも3.67)が高評価であった。反面、「交通ルールの遵守、安全な登下校」(3.00)は最も低く、次いで「教育活動の地域社会への発信」、「生徒のあいさつ」、「思いやり、優しい心の育成」、「健康・安全に配慮した教育活動」、「部活動の振興」(いずれも3.17)についても評価は低めであった。特色と魅力ある学校づくりとその広報活動に積極的に努めてきたが、学校教育活動の地域への発信は更に充実させていかねばならない。交通安全指導は年間をととして計画的に取り組んでおり、自己評価をAとしたが、関係者からの評価は低かった。生徒の交通事故が減少しておらず、交通マナーの面でも改善に努めたい。

その他の意見として、「地域との連携を更に深める」要望が複数あった。来年度からコミュニティ・スクールの導入が予定されており、熊本地震の経験を踏まえて、地域と一体となった取組ができるよう、学校組織の構築に取り組んでいかねばならない。その他、「授業改善の推進」、「進学実績の向上」、「運動部活動の活性化」等の要望もあった。こうした御意見を真摯に受け止め改善に努めていきたい。

5 総合評価

・昨年度は19項目中Aが5、Bが10、Cが4項目であったが、今年度はAが5、Bが13、Cが1となり、特に「規範意識の醸成」や「自主性・社会性の育成」、「支援が必要な生徒への個に合わせた対応」など課題があった項目の改善が見られた。

・今年度特に力を入れて取り組んできたのは「授業改善」である。AL・ICT活用に関する職員研修を重ねるとともに、全校集会を実施し生徒に意義を周知全校で取組を行った。2回の研究授業週間のメインテーマとして「ALの推進」を取り上げ、教育センターのスクールサポート4Sを活用して授業研究等も行った。アンケートの結果から81%の職員がAL型授業を「実践した」と回答している。また、ICT活用に関しても66.7%の職員が「活用した」と回答しており、職員全体で授業改善に取り組むことができた。

・「主体性・社会性の育成」の面では、昨年度から大きく改善が見られ、体育祭や文化祭など学校行事における生徒の積極的な参加や生徒運営による毎月の全校朝礼が定着するなど生徒の主体的な態度が顕著に見られた。その牽引役として生徒会や委員会の活動が活発になっており、アンケート結果からも「生徒会の活性化」については、生徒・保護者・職員とも昨年度を大きく上回る高評価であった。

・「社会規範意識の醸成」については、全職員で課題として共有し、あいさつの励行や端正な服装、時間管理等、力を入れて取り組んで来た。生徒アンケートでは74%が「明るいあいさつができています」と回答しており、徐々に改善してきている。今後、個々の生徒の意識に定着するまで、更に指導に力を入れていく必要がある。

6 次年度への課題・改善方針

・授業改善については、アンケートでほとんどの生徒がAL型授業を肯定的に受け止めているものの「分かりやすい授業づくりができていますか」という質問に肯定的な生徒は66%にとどまった。今後も更に研修を深め、ALを含む教師の授業の技量を上げていく必要がある。また、ICT活用についても、更に環境整備を進めていきたい。

・キャリア教育については、進路意識の向上や適切な勤労観・職業観の育成に向けて、1年次からの計画的・継続的な指導の充実を図っていききたい。また、進学実績の向上に向けて、模試分析会や進路検討会等の充実を図り、個々の生徒の状況を分析し全職員で情報を共有し指導にあたっていく必要がある。

・「社会規範意識の醸成」については、徐々に改善が見られるものの、学校関係者評価にもあるように、まだ十分とは言えない部分がある。より地域から信頼される学校とするためにも、職員が共通理解を持ち、積極的に生徒に関わり、更なる改善に努めたい。

・「部活動の活性化」にも力を入れていきたい。1年次の部活動全員加入の徹底、部活動再編やリーダー研修の実施等により加入率を向上させるとともに、活動内容の充実を図り大会等での活躍を目指す。

・学校改革を更に推進し、「生徒と向き合う時間」の確保に努め、各面での指導の充実・改善に積極的に努めていきたい。